

平成 23 年 3 月 16 日

【照会先】

大臣官房統計情報部

社会統計課縦断調査室

室 長 市川 隆之(内線 7571)

室長補佐 吉川 英樹(内線 7593)

成年者調査係 (内線 7592)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2322

第 8 回 2 1 世紀成年者縦断調査 (国民の生活に関する継続調査) 結果の概況

目 次

調査の概要	1 頁
結果の概要	
Ⅰ 第 1 回調査時の独身者の結婚の状況	
1 この 7 年間の結婚の状況	3
2 就業形態別にみた各回の状況	4
3 就業形態の回数別にみた状況	5
4 所得額別にみた状況	6
Ⅱ 夫婦における子どもの出生の状況	
1 この 7 年間の出生の状況	7
2 夫の休日の家事・育児時間別にみた状況	8
Ⅲ 就業の状況	
1 就業の変化	9
2 学歴別にみた就業の変化	10
3 仕事をしていた女性の結婚後の就業継続の有無	11
4 出生の状況別にみた仕事をしていた妻の就業継続の有無	12
5 妻の就業形態別にみた保育サービスの利用状況	14
6 所得の状況	15
Ⅳ 職業観	
1 結婚・出生の状況別にみた職業観	17
2 結婚・出生の状況別にみたこの 6 年間の職業観の変化	19
参考	21
用語の定義	24

第 8 回 2 1 世紀成年者縦断調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。
アドレス (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html>)

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、調査対象となった男女の結婚、出産、就業等の実態及び意識の経年変化の状況を継続的に観察することにより、少子化対策等厚生労働行政施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的として、平成14年を初年として実施しているものである。

2 調査の対象及び客体

平成14年10月末時点で20～34歳であった全国の男女（及びその配偶者）を対象とし、そのうち、第6回または第7回調査において協力を得られた者（及びその配偶者）を客体とした。第8回調査における対象者の年齢は、27～41歳である。

3 調査の期日

調査の周期 毎年1回（11月の第一水曜日）
調査の期日 第8回調査 平成21年11月4日（水）

4 調査票の種類等

(1) 男性票、(2) 女性票

平成14年10月末時点で20～34歳であった男女が記入

(3) 配偶者票（男性用）、(4) 配偶者票（女性用）

① 第1回調査時点で男性票、女性票の配偶者で、年齢が19歳以下、35歳以上であった者が記入

② 第2回調査以降、男性票、女性票の対象者の、新たな配偶者となった者が記入

5 調査の事項

(1) 男性票 …… 仕事の有無、就業形態、職業観、配偶者の有無、家事・育児時間、親との同居の有無、前年の所得、退職理由等

(2) 女性票 …… 仕事の有無、就業形態、職業観、仕事と子育ての両立支援制度の状況、配偶者の有無、親との同居の有無、子どもの状況、前年の所得、退職理由等

(3) 配偶者票（男性用） …… 仕事の有無、家事・育児時間等

(4) 配偶者票（女性用） …… 仕事の有無、就業形態、仕事と子育ての両立支援制度の状況、子どもの状況等

6 調査の方法

(1) 調査員があらかじめ配付した調査票に被調査者が自ら記入し、密封したものを後日調査員が回収する方法により行った。

(2) 第1回調査以降に転出した者は、厚生労働省から郵送された調査票に被調査者が自ら記入し、郵送により厚生労働省に提出する方法により行った。

結果の概要

I 第1回調査時の独身者の結婚の状況

1 この7年間の結婚の状況

第1回調査時の独身者のうち、この7年間で結婚した割合は、男女とも第1回の年齢が25～29歳の階級が最も高い。

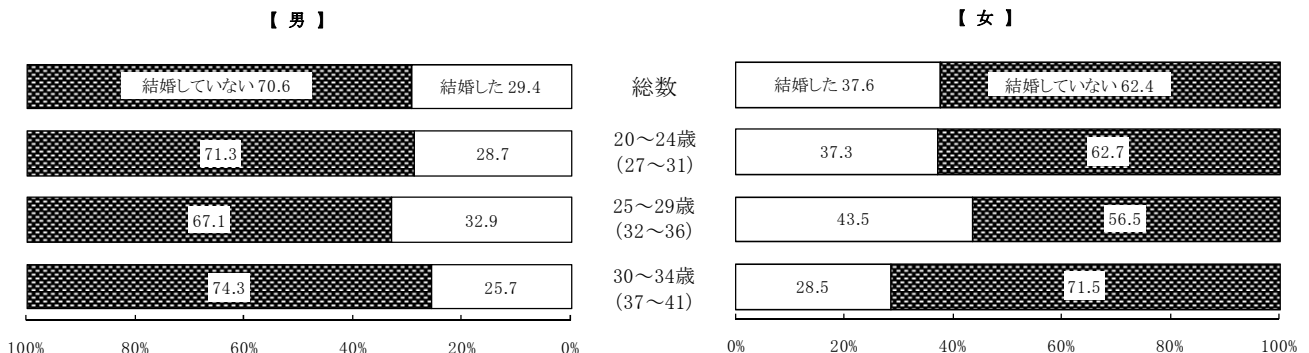
第1回の独身者のうち、男はこの1年間で3.5%が結婚し、この7年間で結婚したのは29.4%となった。女はこの1年間で5.0%が結婚し、この7年間では37.6%となった。男女とも、第1回の年齢が25～29歳の階級が結婚した割合が最も高く、男32.9%、女43.5%となっている。(表1、図1)

表1 性、年齢階級別にみたこの7年間の結婚の状況

		第1回調査時の配偶者の有無			この7年間の結婚の状況			
		総数	配偶者あり	配偶者なし	結婚した	第7回調査から	結婚していない	
						第8回調査間		
第1回調査時の年齢階級 ()内は第8回調査時	男	(100.0)	100.0	36.4	62.6	18.4	2.2	44.2
					[100.0]	[29.4]	[3.5]	[70.6]
	20～24歳 (27～31)	(25.6)	100.0	5.0	93.9	26.9	4.3	67.0
					[100.0]	[28.7]	[4.6]	[71.3]
	25～29歳 (32～36)	(32.8)	100.0	30.7	68.0	22.4	2.1	45.7
					[100.0]	[32.9]	[3.1]	[67.1]
	30～34歳 (37～41)	(41.6)	100.0	60.1	39.0	10.0	1.0	29.0
					[100.0]	[25.7]	[2.5]	[74.3]
女		(100.0)	100.0	45.1	54.0	20.3	2.7	33.7
					[100.0]	[37.6]	[5.0]	[62.4]
	20～24歳 (27～31)	(26.4)	100.0	6.7	92.5	34.5	5.8	58.0
					[100.0]	[37.3]	[6.3]	[62.7]
	25～29歳 (32～36)	(31.6)	100.0	40.9	58.4	25.4	2.6	33.0
				[100.0]	[43.5]	[4.5]	[56.5]	
30～34歳 (37～41)	(42.1)	100.0	72.3	26.6	7.6	0.8	19.0	
				[100.0]	[28.5]	[2.9]	[71.5]	

- 注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。
 2) 「結婚した」には、この7年間に結婚した後離婚した者を含む。
 3) 第1回調査時の配偶者の有無の総数には、配偶者有無の不詳を含む。
 4) []内は、第1回調査時に配偶者なしであった者を総数としたこの7年間の結婚の状況の割合である。
 5) 7年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図1 性、独身者のこの7年間の結婚の状況



- 注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。
 2) 「結婚した」には、この7年間に結婚した後離婚した者を含む。
 3) 年齢は第1回調査時の年齢である。()内は第8回調査時の年齢である。
 4) 7年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

2 就業形態別にみた各回の状況

男女ともに、仕事が非正規の者より、正規の者のほうが結婚した割合が高く、その傾向は男性の方が顕著である。

各回調査時の独身者について、就業形態別に次回調査までの結婚の状況をみた。

この7年間の平均をみると、結婚した者の割合は、男で「正規」6.3%、「非正規」2.1%、女で「正規」7.7%、「非正規」5.7%となっており、「非正規」より「正規」のほうが結婚した割合が高く、その傾向は男性の方が顕著である。(表2、図2)

表2 性、各回調査時の就業形態別にみた次回調査までの結婚の状況

(単位：%)

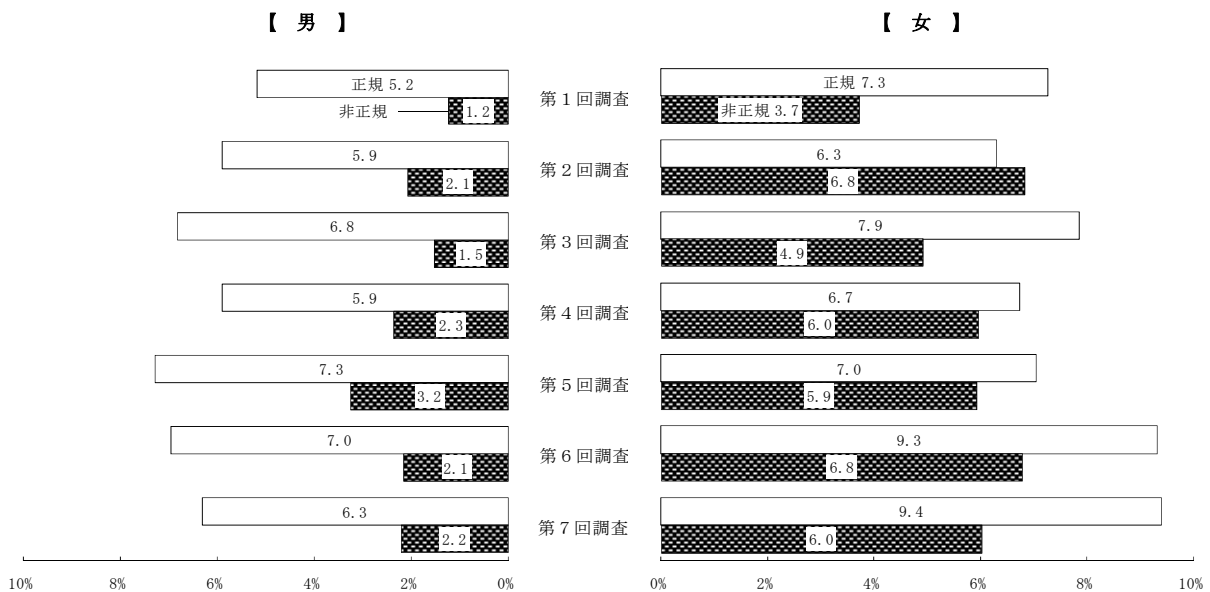
			男			女		
			総数	次回調査までに結婚した	次回調査までに結婚していない	総数	次回調査までに結婚した	次回調査までに結婚していない
各回調査時の独身者の正規・非正規	第1回調査	正規	100.0	5.2	94.8	100.0	7.3	92.7
		非正規	100.0	1.2	98.8	100.0	3.7	96.3
	第2回調査	正規	100.0	5.9	94.1	100.0	6.3	93.7
		非正規	100.0	2.1	97.9	100.0	6.8	93.2
	第3回調査	正規	100.0	6.8	93.2	100.0	7.9	92.1
		非正規	100.0	1.5	98.5	100.0	4.9	95.1
	第4回調査	正規	100.0	5.9	94.1	100.0	6.7	93.3
		非正規	100.0	2.3	97.7	100.0	6.0	94.0
	第5回調査	正規	100.0	7.3	92.7	100.0	7.0	93.0
		非正規	100.0	3.2	96.8	100.0	5.9	94.1
	第6回調査	正規	100.0	7.0	93.0	100.0	9.3	90.7
		非正規	100.0	2.1	97.9	100.0	6.8	93.2
	第7回調査	正規	100.0	6.3	93.7	100.0	9.4	90.6
		非正規	100.0	2.2	97.8	100.0	6.0	94.0
単純平均	正規	100.0	6.3	93.7	100.0	7.7	92.3	
	非正規	100.0	2.1	97.9	100.0	5.7	94.3	

注：1) 集計対象は、第1回調査時に独身で第8回調査まで回答を得られている者である。

2) 「次回調査までに結婚した」には、この7年間に結婚した後離婚した者を含む。

3) 7年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図2 性、各回調査時の就業形態別にみた次回調査までに結婚した割合



3 就業形態の回数別にみた状況

過去3回の就業形態がすべて正規であるものと、すべて非正規であるものを比べると、正規で結婚した割合が高く、その傾向は男性の方が顕著である。

独身者について、過去3回の調査における就業形態の回数別に次回調査までの結婚の状況をみた。

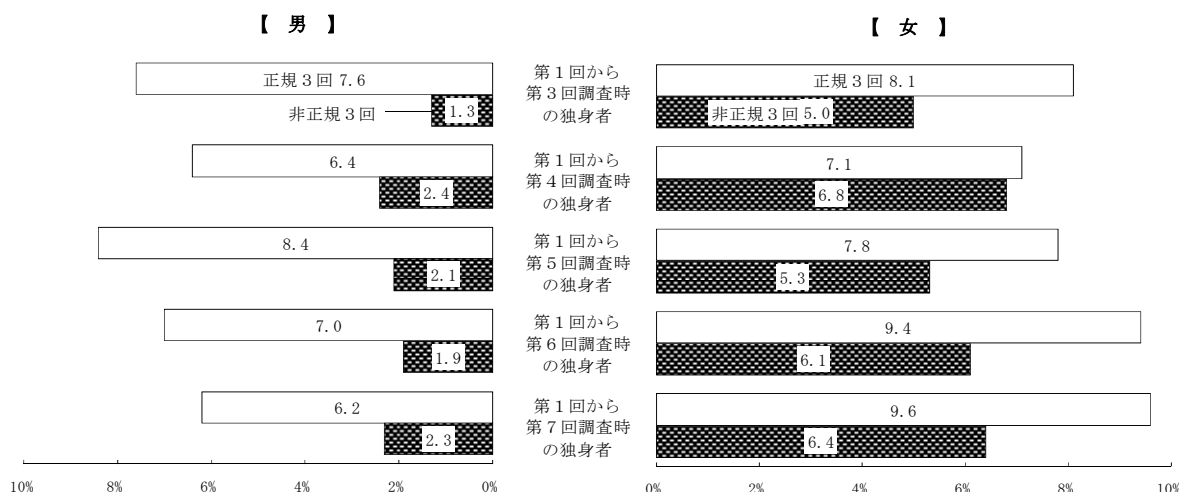
この5年間の平均をみると、結婚した者の割合は、男で「正規3回」7.1%、「非正規3回」2.0%、女で「正規3回」8.4%、「非正規3回」5.9%となっており、「正規3回」の方が、結婚した割合が高く、その傾向は男の方が顕著である。（表3、図3）

表3 性、各回の独身者の過去3回調査における就業形態の回数別にみた次回調査までの結婚の状況

		男				女				
		総数	次回調査までに結婚した	次回調査までに結婚していない	総数	次回調査までに結婚した	次回調査までに結婚していない			
独身者の過去3回の就業形態	第1回から第3回調査時の独身者	(100.0)	100.0	6.7	93.3	(100.0)	100.0	6.9	93.1	
	正規3回	(78.0)	100.0	7.6	92.4	(63.3)	100.0	8.1	91.9	
	第1回から第3回の就業形態	正規1回+非正規2回	(8.0)	100.0	7.6	92.4	(9.4)	100.0	4.1	95.9
		または正規2回+非正規1回	(14.0)	100.0	1.3	98.7	(27.4)	100.0	5.0	95.0
		非正規3回	(100.0)	100.0	5.5	94.5	(100.0)	100.0	7.1	92.9
	第1回から第4回調査時の独身者	(100.0)	100.0	5.5	94.5	(100.0)	100.0	7.1	92.9	
	正規3回	(77.1)	100.0	6.4	93.6	(62.0)	100.0	7.1	92.9	
	第2回から第4回の就業形態	正規1回+非正規2回	(7.6)	100.0	2.4	97.6	(10.5)	100.0	7.4	92.6
		または正規2回+非正規1回	(15.3)	100.0	2.4	97.6	(27.5)	100.0	6.8	93.2
		非正規3回	(100.0)	100.0	7.1	92.9	(100.0)	100.0	6.8	93.2
	第1回から第5回調査時の独身者	(100.0)	100.0	7.1	92.9	(100.0)	100.0	6.8	93.2	
	正規3回	(75.2)	100.0	8.4	91.6	(60.7)	100.0	7.8	92.2	
	第3回から第5回の就業形態	正規1回+非正規2回	(8.7)	100.0	5.1	94.9	(10.9)	100.0	5.7	94.3
		または正規2回+非正規1回	(16.1)	100.0	2.1	97.9	(28.5)	100.0	5.3	94.7
		非正規3回	(100.0)	100.0	5.9	94.1	(100.0)	100.0	8.2	91.8
	第1回から第6回調査時の独身者	(100.0)	100.0	5.9	94.1	(100.0)	100.0	8.2	91.8	
	正規3回	(75.5)	100.0	7.0	93.0	(60.4)	100.0	9.4	90.6	
	第4回から第6回の就業形態	正規1回+非正規2回	(7.8)	100.0	3.3	96.7	(8.8)	100.0	7.6	92.4
		または正規2回+非正規1回	(16.7)	100.0	1.9	98.1	(30.8)	100.0	6.1	93.9
		非正規3回	(100.0)	100.0	5.2	94.8	(100.0)	100.0	8.2	91.8
第1回から第7回調査時の独身者	(100.0)	100.0	5.2	94.8	(100.0)	100.0	8.2	91.8		
正規3回	(76.3)	100.0	6.2	93.8	(60.3)	100.0	9.6	90.4		
第5回から第7回の就業形態	正規1回+非正規2回	(5.0)	100.0	1.1	98.9	(6.5)	100.0	4.2	95.8	
	または正規2回+非正規1回	(18.7)	100.0	2.3	97.7	(33.2)	100.0	6.4	93.6	
	非正規3回	(100.0)	100.0	6.1	93.9	(100.0)	100.0	7.4	92.6	
単純平均	総数	(100.0)	100.0	6.1	93.9	(100.0)	100.0	7.4	92.6	
	正規3回	(76.4)	100.0	7.1	92.9	(61.3)	100.0	8.4	91.6	
	正規1回+非正規2回	(7.4)	100.0	3.9	96.1	(9.2)	100.0	5.8	94.2	
	または正規2回+非正規1回	(16.2)	100.0	2.0	98.0	(29.5)	100.0	5.9	94.1	

注:1) 集計対象は第1回調査時から第3回調査時まで独身で第8回調査まで回答を得られていて、なおかつ該当する過去3回が仕事ありで就業形態が正規・非正規の者である。
ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者、及びこの5年間で2回以上結婚している者を除く。
2) 過去3回に第2回調査が該当し、なおかつ仕事ありの場合は、主に通学している者を除く。

図3 性、各回の独身者の過去3回調査における就業形態の回数別にみた次回調査までに結婚した割合



注:1) 集計対象は第1回調査時から第3回調査時まで独身で第8回調査まで回答を得られていて、なおかつ該当する過去3回が仕事ありで就業形態が正規・非正規の者である。
ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者、及びこの5年間で2回以上結婚している者を除く。
2) 過去3回に第2回調査が該当し、なおかつ仕事ありの場合は、主に通学している者を除く。

4 所得額別にみた状況

男女ともに、所得額が高くなるほど、結婚の割合が高くなる傾向がある。

第3回の独身者について、「結婚した」は結婚前調査時の、「結婚していない」は第7回調査時の所得額階級別に、この5年間の結婚の状況をみた。

男女ともに、「400万円以上500万円未満」で、「結婚した」の割合が最も高く、所得額が高くなるほど、結婚の割合が高くなる傾向がある。特に、男では、最も低い「100万円未満」で12.2%、最も高い「400万円以上500万円未満」で32.6%と、20.4ポイントの差がある。(表4、図4)

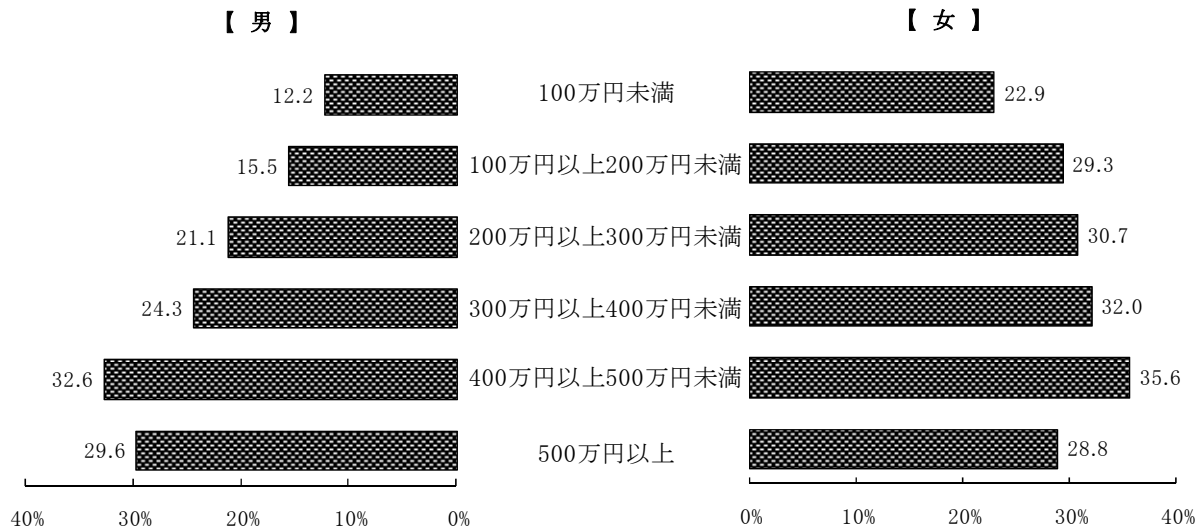
表4 性、所得額階級別にみたこの5年間の結婚の状況

(単位：%)

所得額	総数	男			女			
		総数	結婚した	結婚していない	総数	結婚した	結婚していない	
総数	(100.0)	100.0	23.1	76.9	(100.0)	100.0	29.6	70.4
100万円未満	(10.6)	100.0	12.2	87.8	(11.5)	100.0	22.9	77.1
100万円以上200万円未満	(8.9)	100.0	15.5	84.5	(20.5)	100.0	29.3	70.7
200万円以上300万円未満	(20.0)	100.0	21.1	78.9	(29.7)	100.0	30.7	69.3
300万円以上400万円未満	(25.9)	100.0	24.3	75.7	(19.2)	100.0	32.0	68.0
400万円以上500万円未満	(13.9)	100.0	32.6	67.4	(7.6)	100.0	35.6	64.4
500万円以上	(11.3)	100.0	29.6	70.4	(4.9)	100.0	28.8	71.2

- 注：1) 集計対象は、第3回調査時に独身で第8回調査まで回答を得られている者である。
 2) 所得額は、「結婚した」は結婚前調査時の、「結婚していない」は第7回調査時の状況である。
 3) 「結婚した」には、この5年間に結婚した後離婚した者を含む。
 4) 5年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。
 5) 所得額の「100万円未満」には所得なしを、総数には所得不詳を含む。

図4 性、所得額階級別にみたこの5年間に結婚した割合



- 注：1) 集計対象は、第3回調査時に独身で第8回調査まで回答を得られている者である。
 2) 所得額は、結婚前調査時の状況である。
 3) この5年間に結婚した後離婚した者を含む。
 4) 5年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。
 5) 所得額の「100万円未満」には所得なしを含む。

II 夫婦における子どもの出生の状況

1 この7年間の出生の状況

この7年間に、47.2%の夫婦に子どもが生まれた。

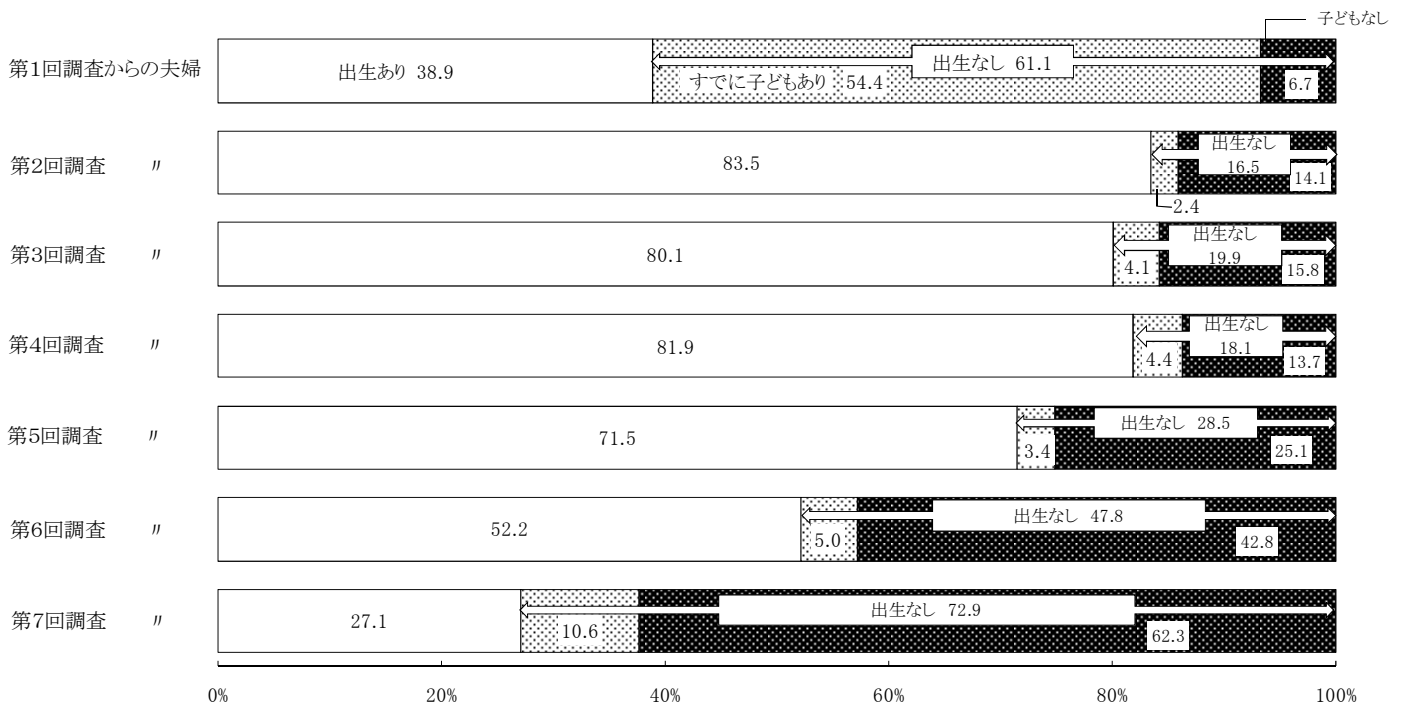
この1年間に、第1回からの夫婦の2.7%、第2回からの夫婦の11.8%、第3回からの夫婦の21.4%、第4回からの夫婦の25.1%、第5回からの夫婦の22.3%、第6回からの夫婦の26.4%、第7回からの夫婦の27.1%に子どもが生まれ、この7年間では、それぞれ38.9%、83.5%、80.1%、81.9%、71.5%、52.2%、27.1%の夫婦に1人以上の子どもが生まれた（表5、図5）。

表5 夫婦となった時点別にみたこの7年間の出生の状況

		総数		この7年間に出生あり					この7年間に出生なし		
				第7回調査から第8回調査間に出生				総数	すでに子どもあり	子どもなし	
				総数	第1子	第2子	第3子以降				
夫婦となった時点	総数	(100.0)	100.0	47.2	8.9	3.8	3.4	1.7	52.8	39.1	13.6
	第1回調査からの夫婦	(69.1)	100.0	38.9	2.7	0.2	0.7	1.8	61.1	54.4	6.7
	第2回調査	(4.5)	100.0	83.5	11.8	2.4	7.1	2.4	16.5	2.4	14.1
	第3回調査	(5.2)	100.0	80.1	21.4	4.6	12.2	4.6	19.9	4.1	15.8
	第4回調査	(6.0)	100.0	81.9	25.1	6.6	16.7	1.8	18.1	4.4	13.7
	第5回調査	(4.7)	100.0	71.5	22.3	9.5	12.8	-	28.5	3.4	25.1
	第6回調査	(5.3)	100.0	52.2	26.4	19.9	6.0	0.5	47.8	5.0	42.8
	第7回調査	(5.2)	100.0	27.1	27.1	27.1	-	-	72.9	10.6	62.3

注：1) 集計対象は、①または②に該当する夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 2) 「第1回調査からの夫婦」には、調査開始以前からの夫婦を含む。
 3) 「この7年間に出生なし」で「すでに子どもあり」は、第1回調査時に子どもがいた夫婦と、第2回調査以降に夫婦として回答する以前に結婚、出生があった夫婦を計上している。

図5 夫婦となった時点別にみたこの7年間の出生の状況



注：1) 集計対象は、①または②に該当する夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 2) 「第1回調査からの夫婦」には、調査開始以前からの夫婦を含む。
 3) 「この7年間に出生なし」で「すでに子どもあり」は、第1回調査時に子どもがいた夫婦と、第2回調査以降に夫婦として回答する以前に結婚、出生があった夫婦を計上している。

2 夫の休日の家事・育児時間別にみた状況

子どもがいる夫婦は、夫の休日の家事・育児時間が長くなるほど、第2子以降の生まれる割合が高くなる傾向がある。

夫婦について、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第7回調査時の夫の休日の家事・育児時間別に、この7年間の出生の状況をみた。

子ども1人の夫婦では、「家事・育児時間なし」で28.9%、「6時間以上8時間未満」で84.1%に第2子が生まれている。(表6)

また、子どもがいる夫婦全体でみると、「家事・育児時間なし」で14.3%、「8時間以上」で61.2%に第2子以降が生まれており、家事・育児時間が長いほど子どもが生まれている割合が高くなる傾向がある(図6)。

表6 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの7年間の出生の状況

(単位：%)

		総数				子どもなしの夫婦			子ども1人の夫婦			子ども2人以上の夫婦		
		総数	出生あり	出生なし		総数	第1子出生あり	出生なし	総数	第2子出生あり	出生なし	総数	第3子以降出生あり	出生なし
夫の休日の家事・育児時間	総数	(100.0)	100.0	43.9	56.1	100.0	45.9	54.1	100.0	68.8	31.2	100.0	24.8	75.2
	家事・育児時間なし	(7.6)	100.0	35.4	64.6	100.0	51.7	48.3	100.0	28.9	71.1	100.0	6.8	93.2
	2時間未満	(30.3)	100.0	36.6	63.4	100.0	46.2	53.8	100.0	49.4	50.6	100.0	14.4	85.6
	2時間以上4時間未満	(21.3)	100.0	41.1	58.9	100.0	47.5	52.5	100.0	68.1	31.9	100.0	19.7	80.3
	4時間以上6時間未満	(12.3)	100.0	55.3	44.7	100.0	52.9	47.1	100.0	78.1	21.9	100.0	35.5	64.5
	6時間以上8時間未満	(5.5)	100.0	53.0	47.0	100.0	33.3	66.7	100.0	84.1	15.9	100.0	28.0	72.0
	8時間以上	(16.9)	100.0	61.2	38.8	100.0	50.0	50.0	100.0	80.6	19.4	100.0	43.4	56.6

注:1) 集計対象は、①または②に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

① 第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦

② 第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦

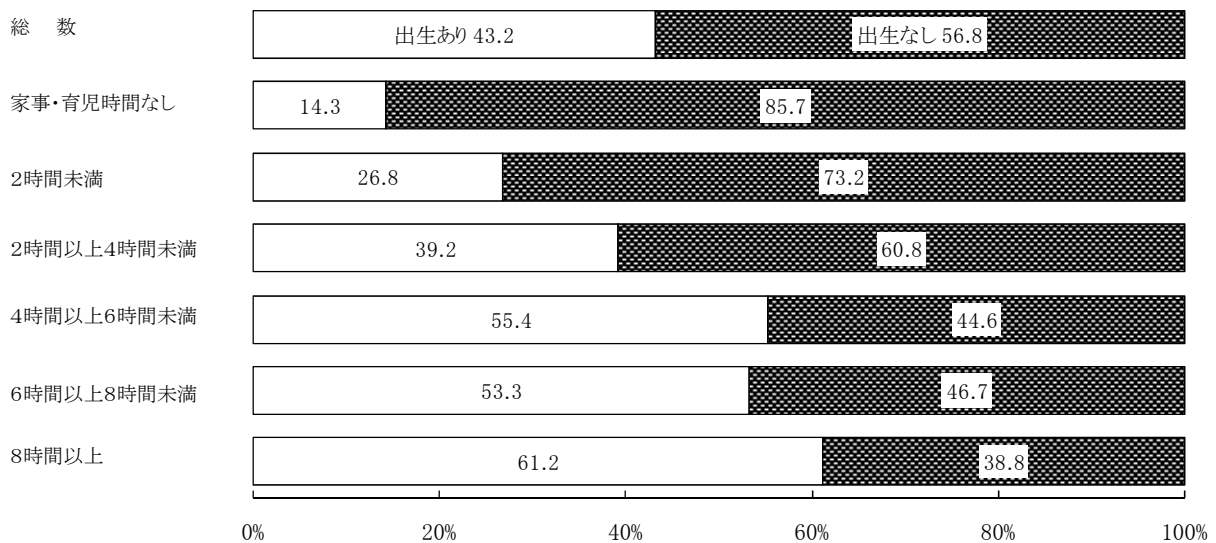
2) 家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第7回調査時の状況である。

3) 「子どもなしの夫婦」「子ども1人の夫婦」「子ども2人以上の夫婦」は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第7回調査時の状況である。

4) 7年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

5) 総数には、家事・育児時間不詳を含む。

図6 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの7年間の第2子以降の出生の状況



注:1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

① 第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦

② 第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦

③ 出生前調査時に、子ども1人以上ありの夫婦

2) 家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第7回調査時の状況である。

3) 7年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

4) 総数には、家事・育児時間不詳を含む。

Ⅲ 就業の状況

1 就業の変化

第1回調査時に正規の仕事をしている者のうち、男性81.1%、女性58.4%が第8回調査時も正規の仕事をしている。

第1回が「仕事あり」の者について、就業形態の正規・非正規別でみると、第1回と第8回が「正規」の者の割合は、男は81.1%、女は58.4%となっている（表7）。

第1回に「非正規」だった者の第8回就業形態をみると、第8回に「正規」となっているのは、男40.3%、女15.5%となっており、男女とも年齢が低いほど「正規」になっている割合が高くなっている（図7）。

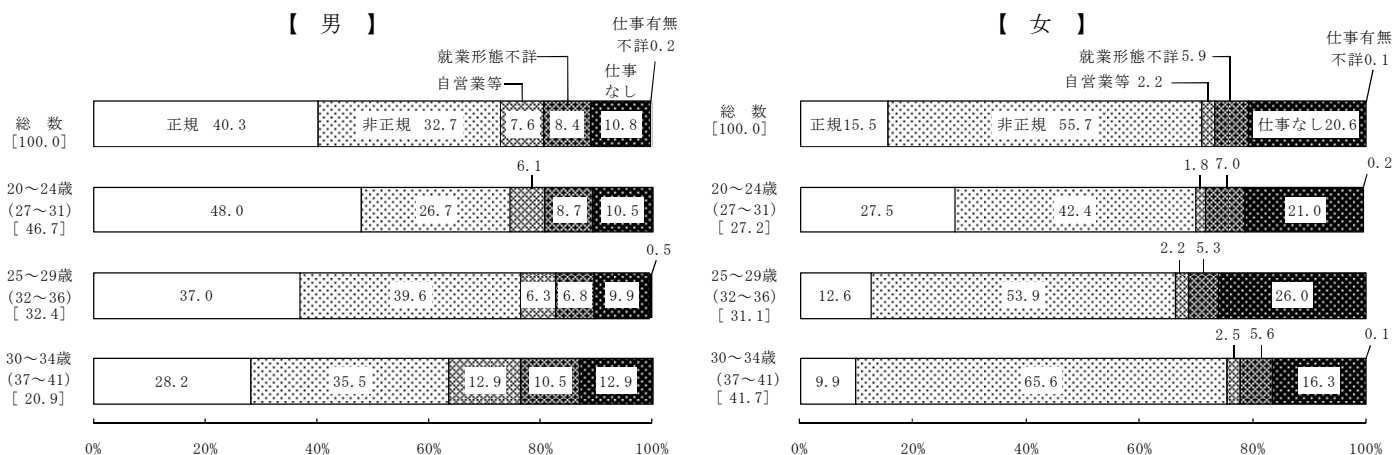
表7 性、第1回調査時の仕事の有無別にみた第8回調査時の仕事の有無

(単位：%)

		第8回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規					
		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし	
				正規	非正規		
第1回調査時 (再掲) 正規・非正規 の仕事の有無、	男	(100.0)	100.0	93.3	63.6	8.9	6.6
	仕事あり	(88.1)	100.0	96.3	67.1	7.9	3.7
	(再掲) 正規	(60.7)	100.0	97.2	81.1	4.2	2.7
	(再掲) 非正規	(10.5)	100.0	89.0	40.3	32.7	10.8
	仕事なし	(9.1)	100.0	69.1	36.2	17.1	30.5
女	(100.0)	100.0	71.9	28.4	33.1	28.0	
仕事あり	(66.8)	100.0	80.6	37.9	31.4	19.3	
(再掲) 正規	(33.7)	100.0	80.5	58.4	15.4	19.5	
(再掲) 非正規	(25.0)	100.0	79.3	15.5	55.7	20.6	
仕事なし	(31.7)	100.0	53.6	8.5	36.9	46.3	

注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。
2) 男、女には、仕事の有無不詳を含む。

図7 性、年齢階級別にみた第1回調査時に非正規だった者の第8回調査時の就業形態の変化



注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。
2) 年齢は、第1回調査時の年齢である。()内は第8回調査時の年齢である。
3) 「自営業等」は、会社などの役員・自営業主、自家営業の手伝い、自宅での賃仕事(内職)を合算したものである。

2 学歴別にみた就業の変化

第1回調査時に仕事が正規で第8回調査時にも正規である割合、および第1回調査時に仕事が非正規の者で第8回調査時に正規になっている割合は、ともに学歴が高いほど高くなっている。

学歴別に第1回調査時と第8回調査時の就業形態をみた。

第1回に「正規」で第8回にも「正規」であるのは、男では、中学卒74.0%、高校卒79.3%、専門学校・短大・高専卒81.6%、大学・大学院卒86.3%となっている。また女では、中学卒26.3%、高校卒56.7%、専門学校・短大・高専卒58.3%、大学・大学院卒61.8%となっている。

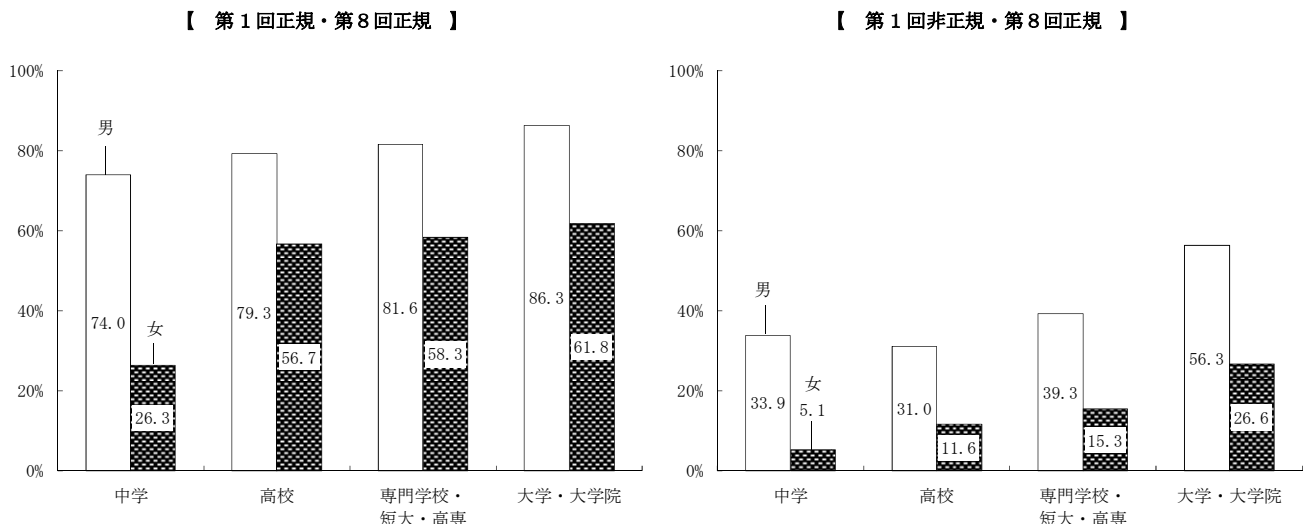
また、第1回に「非正規」で第8回に「正規」であるのは、男では、中学卒33.9%、高校卒31.0%、専門学校・短大・高専卒39.3%、大学・大学院卒56.3%となっている。また女では、中学卒5.1%、高校卒11.6%、専門学校・短大・高専卒15.3%、大学・大学院卒26.6%となっている。(表8、図8)

表8 性、学歴、第1回調査時の仕事の有無別にみた第8回調査時の仕事の有無

		男						女					
		第8回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規						第8回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規					
		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし	
				正規	非正規					正規	非正規		
学歴、 (第1回調査時) の 非正規 の 有無	中学	(100.0)	100.0	84.0	46.9	13.7	15.2	(100.0)	100.0	65.2	9.7	41.5	34.8
	仕事あり	(81.2)	100.0	92.1	53.7	13.0	7.9	(48.3)	100.0	85.0	11.0	58.0	15.0
	(再掲) 正規	(43.6)	100.0	92.9	74.0	7.1	7.1	(9.2)	100.0	63.2	26.3	21.1	36.8
	(再掲) 非正規	(15.2)	100.0	86.4	33.9	37.3	13.6	(28.5)	100.0	91.5	5.1	76.3	8.5
	仕事なし	(13.7)	100.0	50.9	22.6	15.1	47.2	(47.3)	100.0	43.9	7.1	26.5	56.1
	高校	(100.0)	100.0	92.8	60.9	9.5	7.1	(100.0)	100.0	70.4	21.6	38.8	29.6
	仕事あり	(89.2)	100.0	95.9	64.4	8.3	4.1	(62.1)	100.0	82.0	31.4	38.8	18.0
	(再掲) 正規	(61.3)	100.0	97.0	79.3	5.1	2.9	(26.2)	100.0	82.3	56.7	17.7	17.7
	(再掲) 非正規	(9.7)	100.0	86.9	31.0	35.8	13.1	(27.6)	100.0	80.8	11.6	61.8	19.2
	仕事なし	(7.6)	100.0	60.2	24.9	20.4	39.2	(36.5)	100.0	51.2	5.3	39.0	48.7
	専門学校・短大・高専	(100.0)	100.0	94.9	65.1	7.7	5.1	(100.0)	100.0	73.7	32.2	31.1	26.2
	仕事あり	(91.1)	100.0	97.1	67.1	7.1	2.9	(69.7)	100.0	80.6	41.2	28.3	19.3
	(再掲) 正規	(62.6)	100.0	98.7	81.6	4.2	1.3	(40.1)	100.0	80.6	58.3	15.7	19.4
	(再掲) 非正規	(9.8)	100.0	86.0	39.3	30.8	14.0	(21.3)	100.0	77.9	15.3	55.2	21.7
	仕事なし	(7.0)	100.0	70.1	44.2	14.3	29.9	(29.1)	100.0	56.9	10.1	38.1	43.0
	大学・大学院	(100.0)	100.0	96.2	73.4	7.0	3.8	(100.0)	100.0	72.1	37.9	25.3	27.9
仕事あり	(87.5)	100.0	97.5	76.4	6.0	2.5	(73.0)	100.0	78.1	46.1	23.1	21.9	
(再掲) 正規	(64.9)	100.0	97.7	86.3	2.3	2.3	(39.9)	100.0	78.4	61.8	11.7	21.6	
(再掲) 非正規	(11.1)	100.0	94.8	56.3	27.6	5.2	(26.9)	100.0	77.1	26.6	42.3	22.9	
仕事なし	(10.7)	100.0	85.0	50.9	14.4	15.0	(25.6)	100.0	55.2	14.7	31.5	44.8	

注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。
2) 学歴が「その他」「不詳」の者を除く。
3) 「中学」「高校」「専門学校・短大・高専」「大学・大学院」の総数には、仕事の有無不詳を含む。

図8 性、学歴別にみた第1回調査時及び第8回調査時の就業形態の変化



注：集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。

3 仕事をしてきた女性の結婚後の就業継続の有無

女性は、仕事が正規の場合 64.3%、非正規の場合 44.5%が結婚後も同一就業を継続している。

第1回の独身者について、この7年間に結婚し、結婚前に仕事をしてきた女性について結婚後の就業継続の有無をみると、「同一就業継続」は56.4%、「転職」は9.9%、「離職」は29.4%となっている。

また、就業形態別にみると、「正規」では64.3%が「同一就業継続」となっている。「非正規」では「同一就業継続」が44.5%、「離職」が39.3%となっているが、21～25歳では、半数以上が離職している。(表9、図9)

表9 年齢階級別にみた結婚した女性の就業継続の有無

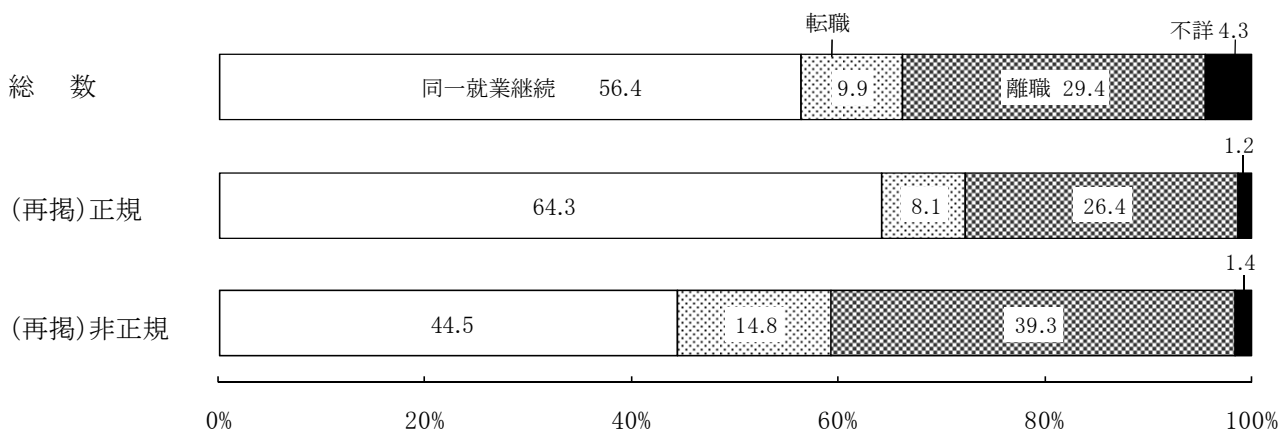
		(単位：%)							
		総数	同一就業継続	転職			離職	不詳	
				総数	(再掲) 正規へ	(再掲) 非正規へ			
結婚(再掲調査)時の結婚前年齢調査階級の正規・非正規	総数	(100.0)	100.0	56.4	9.9	2.2	6.9	29.4	4.3
	21～25歳	(12.5)	100.0	47.8	10.2	3.2	6.4	40.1	1.9
	26～30歳	(52.1)	100.0	56.5	10.0	2.0	7.0	28.9	4.6
	31～35歳	(28.4)	100.0	58.4	10.4	2.5	7.6	26.4	4.8
	36歳以上	(6.9)	100.0	63.2	6.9	-	4.6	25.3	4.6
	(再掲) 正規	(100.0)	100.0	64.3	8.1	1.6	5.5	26.4	1.2
	21～25歳	(13.4)	100.0	56.5	9.3	3.7	4.6	34.3	-
	26～30歳	(53.7)	100.0	66.3	8.3	1.2	6.0	24.0	1.4
	31～35歳	(25.3)	100.0	63.2	8.3	2.0	5.9	27.0	1.5
	36歳以上	(7.7)	100.0	67.7	3.2	-	1.6	27.4	1.6
	(再掲) 非正規	(100.0)	100.0	44.5	14.8	3.0	11.2	39.3	1.4
	21～25歳	(12.6)	100.0	30.4	13.0	2.2	10.9	56.5	-
	26～30歳	(49.7)	100.0	39.0	14.3	3.3	10.4	45.1	1.6
	31～35歳	(32.5)	100.0	55.5	16.0	3.4	12.6	26.9	1.7
36歳以上	(5.2)	100.0	63.2	15.8	-	10.5	21.1	-	

注：1) 集計対象は、第1回調査時に独身で第8回調査まで回答を得られ、この7年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2) 「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3) 7年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図9 結婚した女性の就業継続の有無



注：1) 集計対象は、第1回調査時に独身で第8回調査まで回答を得られ、この7年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2) 「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3) 7年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

4 出生の状況別にみた仕事をしてきた妻の就業継続の有無

(1) 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた状況

第1子出産のときに51.9%の妻が離職しており、就業形態で見ると、正規33.7%、非正規73.7%となっている。

夫婦のうち、「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第7回調査時に仕事をしてきた妻について、この7年間の出生の状況別に、就業継続の有無をみた。

出産後において「同一就業継続」であった割合は、「出生あり」では51.3%となっていて、出生順位別にみると、「第1子」では42.5%、「第2子」では60.9%、「第3子以降」では48.8%となっている。

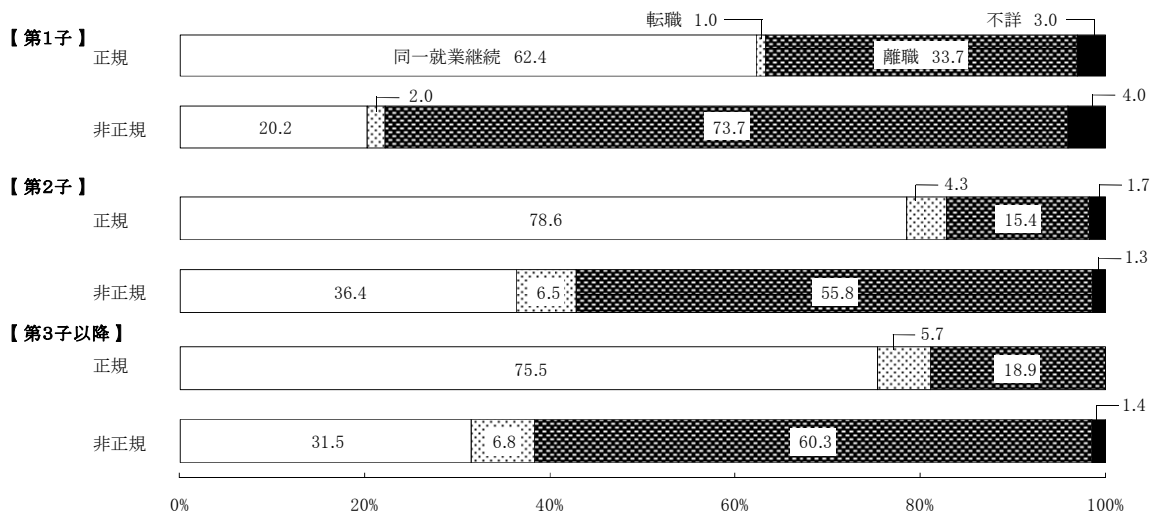
また、第1子出産の妻をみると、「同一就業継続」42.5%、「離職」51.9%となっている。そのうち正規では「同一就業継続」62.4%、「離職」33.7%、非正規では「同一就業継続」20.2%、「離職」73.7%となっている。(表10、図10)

表10 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた妻の就業継続の有無

		(単位：%)					
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出生の有無、 出生順位、 正規・非正規 (再掲)	出生あり	(100.0)	100.0	51.3	4.2	40.1	4.4
	(再掲) 正規	(44.0)	100.0	72.0	3.3	22.9	1.8
	(再掲) 非正規	(40.4)	100.0	28.5	4.8	64.3	2.4
	第1子	(34.7)	100.0	42.5	1.4	51.9	4.2
	(再掲) 正規	(16.4)	100.0	62.4	1.0	33.7	3.0
	(再掲) 非正規	(16.1)	100.0	20.2	2.0	73.7	4.0
	第2子	(38.6)	100.0	60.9	5.0	29.4	4.6
	(再掲) 正規	(19.0)	100.0	78.6	4.3	15.4	1.7
	(再掲) 非正規	(12.5)	100.0	36.4	6.5	55.8	1.3
	第3子以降	(26.6)	100.0	48.8	6.7	40.2	4.3
	(再掲) 正規	(8.6)	100.0	75.5	5.7	18.9	-
	(再掲) 非正規	(11.9)	100.0	31.5	6.8	60.3	1.4
	出生なし	(100.0)	100.0	76.6	7.4	7.9	8.1
	(再掲) 正規	(24.7)	100.0	89.6	2.6	5.8	1.9
	(再掲) 非正規	(59.4)	100.0	79.7	9.8	8.1	2.4

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第7回調査時に妻が仕事ありであった夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、「出生あり」は出産前調査時の、「出生なし」は第7回調査時の状況である。
 3) 7年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

図10 出生順位、就業形態別にみた出生のあった妻の就業継続の有無



注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③出産前調査時に、妻が仕事ありであった夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。
 3) 7年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

(2) 妻の職場における育児休業制度の有無別にみた状況

正規の仕事をしている妻で第1子を出産し、育児休業制度を利用しやすい雰囲気がある場合 87.9%が出産後も同一就業を継続している。

夫婦のうち、出産前に妻が会社等に勤めていて、この6年間に子どもが生まれた夫婦について、育児休業制度の有無別に、出産後における妻の就業継続の有無をみた。

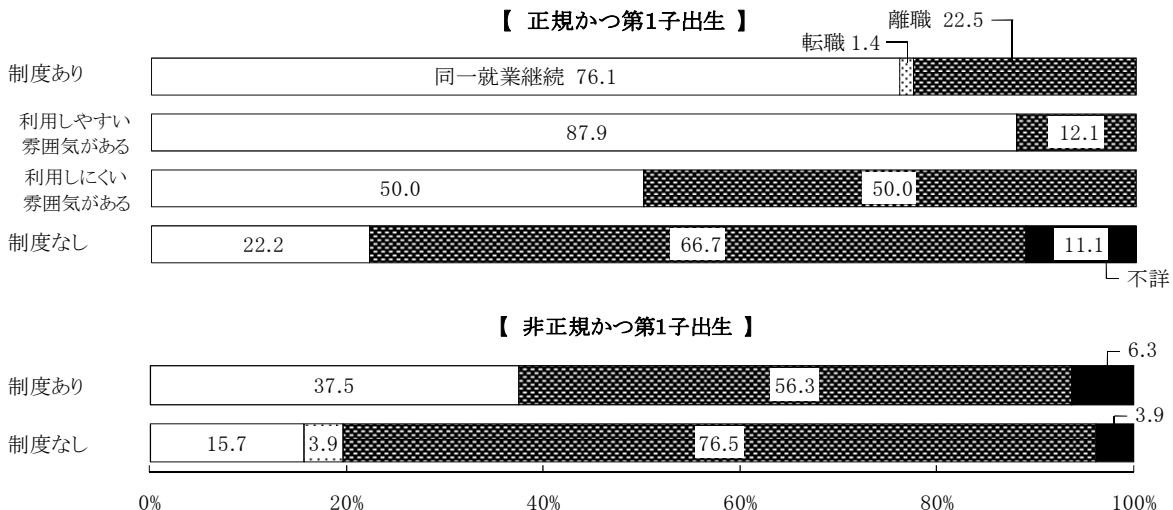
第1子を出産した妻の「同一就業継続」の割合を就業形態別にみると、「正規」で「制度あり」では76.1%、「非正規」で「制度あり」では37.5%となっている。また、「正規」で「制度あり」のうち「利用しやすい雰囲気がある」では87.9%、「利用しにくい雰囲気がある」では50.0%となっている。(表11、図11)

表11 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無

		総数						(単位: %)	
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳			
出産前調査時の妻の就業形態で利用可能な正規・非正規	総数	(100.0)	100.0	52.2	4.3	41.7	1.8		
	制度あり	(52.9)	100.0	73.7	4.2	20.8	1.3		
	利用しやすい雰囲気がある	(30.5)	100.0	80.9	3.7	14.7	0.7		
	利用しにくい雰囲気がある	(8.5)	100.0	57.9	7.9	34.2	-		
	どちらともいえない	(12.3)	100.0	67.3	1.8	27.3	3.6		
	制度なし	(27.1)	100.0	25.6	4.1	66.9	3.3		
	制度があるかないかわからない	(17.0)	100.0	31.6	3.9	63.2	1.3		
	(再掲) 正規かつ第1子出生	(100.0)	100.0	66.3	1.1	30.4	2.2		
	制度あり	(77.2)	100.0	76.1	1.4	22.5	-		
	利用しやすい雰囲気がある	(35.9)	100.0	87.9	-	12.1	-		
	利用しにくい雰囲気がある	(17.4)	100.0	50.0	-	50.0	-		
	どちらともいえない	(21.7)	100.0	75.0	5.0	20.0	-		
	制度なし	(9.8)	100.0	22.2	-	66.7	11.1		
	制度があるかないかわからない	(13.0)	100.0	41.7	-	50.0	8.3		
	(再掲) 非正規かつ第1子出生	(100.0)	100.0	19.6	2.2	75.0	3.3		
制度あり	(17.4)	100.0	37.5	-	56.3	6.3			
利用しやすい雰囲気がある	(5.4)	100.0	60.0	-	40.0	-			
利用しにくい雰囲気がある	(4.3)	100.0	25.0	-	75.0	-			
どちらともいえない	(5.4)	100.0	20.0	-	60.0	20.0			
制度なし	(55.4)	100.0	15.7	3.9	76.5	3.9			
制度があるかないかわからない	(20.7)	100.0	10.5	-	89.5	-			

注: 1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの6年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。
 3) 総数には、育児休業制度の有無不詳を含む。
 4) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

図11 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無



注: 1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの6年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。
 3) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

5 妻の就業形態別にみた保育サービスの利用状況

仕事ありの妻は、親の支援なしでは認可保育所（園）を利用している割合が高く、親の支援なしと比べると、親の支援ありでは幼稚園（預かり保育を除く）を利用している割合も高くなっている。

第8回に小学校入学前の子どもがいる妻について、第8回の親の支援の有無、妻の就業形態別に保育サービス等の利用状況（複数回答）をみた。

「仕事あり」の妻は、「親の支援あり」では40.6%、「親の支援なし」では63.9%が認可保育所（園）を利用している。（表12）

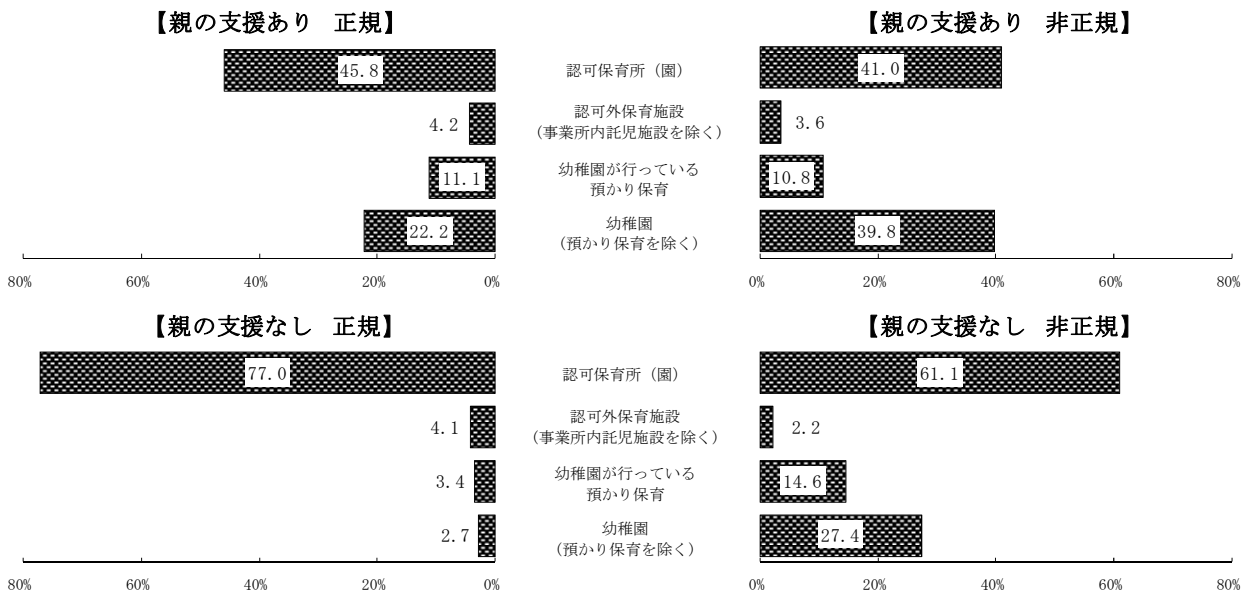
また、「親の支援なし」で幼稚園（預かり保育を除く）を利用している正規は2.7%、非正規では27.4%となっている（図12）。

表12 親の支援の有無、妻の仕事の有無別にみた保育サービス等の利用状況（複数回答）

		第8回調査時の保育サービス等の利用状況（複数回答）										
		総数	認可保育所（園）	事業所内託児施設	認可外保育施設（事業所内託児施設を除く）	ベビーシッター・保育ママ	ファミリー・サポート・センター	幼稚園が行っている預かり保育	幼稚園（預かり保育を除く）	利用していない	不詳	
第8回調査時の親の支援の有無、仕事の有無、 (再掲)	総数	(100.0)	100.0	33.1	1.0	2.2	0.2	1.5	10.1	34.1	27.4	0.8
	仕事あり	(50.3)	100.0	57.0	1.8	3.1	0.3	1.7	10.9	23.9	13.3	0.3
	(再掲) 正規	(16.9)	100.0	66.8	2.3	4.1	0.5	2.7	5.9	9.1	17.7	-
	(再掲) 非正規	(23.8)	100.0	55.7	2.3	2.6	0.3	1.0	13.6	30.7	8.7	-
	仕事なし	(49.7)	100.0	8.8	0.2	1.2	0.2	1.2	9.3	44.3	41.6	1.2
	親の支援あり	(100.0)	100.0	28.6	1.0	3.3	-	1.0	9.5	33.2	33.2	0.7
	仕事あり	(63.2)	100.0	40.6	1.6	4.2	-	1.6	11.5	32.8	20.8	0.5
	(再掲) 正規	(23.7)	100.0	45.8	1.4	4.2	-	2.8	11.1	22.2	23.6	-
	(再掲) 非正規	(27.3)	100.0	41.0	2.4	3.6	-	-	10.8	39.8	18.1	-
	仕事なし	(36.8)	100.0	8.0	-	1.8	-	-	6.3	33.9	54.5	0.9
	親の支援なし	(100.0)	100.0	34.4	1.0	1.8	0.3	1.6	10.2	34.3	25.6	0.8
	仕事あり	(46.3)	100.0	63.9	1.9	2.6	0.4	1.7	10.6	20.1	10.2	0.2
	(再掲) 正規	(14.8)	100.0	77.0	2.7	4.1	0.7	2.7	3.4	2.7	14.9	-
	(再掲) 非正規	(22.7)	100.0	61.1	2.2	2.2	0.4	1.3	14.6	27.4	5.3	-
	仕事なし	(53.6)	100.0	9.0	0.2	1.1	0.2	1.5	9.9	46.4	39.0	1.3

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの7年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③第8回調査時に小学校入学前の子どもがいる「女性票」の対象者である。
 2) 「保育サービス等の利用状況」とは、小学校入学前の子どもが複数いる場合には、いずれかの子どもが利用している保育サービス等を計上している。
 3) 総数には仕事の有無不詳を含む。
 4) () を除く数値は、「第8回調査時の親の支援の有無、第8回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規」ごとの総数を100とした割合である。

図12 親の支援の有無、妻の就業形態別にみた保育サービス等の利用状況（複数回答）



注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの7年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③第8回調査時に小学校入学前の子どもがいる「女性票」の対象者である。
 2) 「保育サービス等の利用状況」とは、小学校入学前の子どもが複数いる場合には、いずれかの子どもが利用している保育サービス等を計上している。

6 所得の状況

(1) 男の所得の状況

男性の第3回調査時から第8回調査時までの所得の状況をみると、年齢が高くなるほど中位数は高くなっているが、四分位分散係数は年齢による違いはあまりみられない。

男の第3回から第8回までの平均所得について金額階級別の割合をみると、27歳では「200万円以上300万円未満」が38.4%、32歳及び37歳では「300万円以上400万円未満」がそれぞれ33.6%、27.3%と最も大きくなっている。

また、第8回の所得について金額階級別の割合をみると、27歳及び32歳では「300万円以上400万円未満」がそれぞれ32.1%、33.3%、37歳では「400万円以上500万円未満」が23.3%と最も大きくなっている。(表13、図13)

表13 男の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級及び第8回の所得金額階級

	第3～8回の平均所得金額階級			第8回の所得金額階級		
	27歳	32歳	37歳	27歳	32歳	37歳
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
所得なし	0.7	0.6	0.2	6.5	5.0	1.4
100万円未満	14.1	6.7	2.8	4.6	3.2	1.2
100万円以上200万円未満	28.9	12.2	6.2	11.5	8.5	5.3
200万円以上300万円未満	38.4	30.0	16.1	27.5	20.9	12.5
300万円以上400万円未満	14.4	33.6	27.3	32.1	33.3	23.0
400万円以上500万円未満	2.8	13.8	23.4	13.4	16.7	23.3
500万円以上600万円未満	0.7	2.8	13.7	4.2	8.2	14.9
600万円以上	-	0.3	10.3	0.4	4.3	18.5
平均所得金額(万円)	211.4	291.4	406.0	270.6	316.3	433.2
第1・四分位数(万円)	149.3	220.0	298.3	200.0	240.0	300.0
中位数(万円)	214.5	300.0	388.0	295.0	310.0	400.0
第3・四分位数(万円)	270.0	375.0	493.5	350.0	400.0	530.0
四分位分散係数	0.28	0.26	0.25	0.25	0.26	0.29

注：1) 集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。

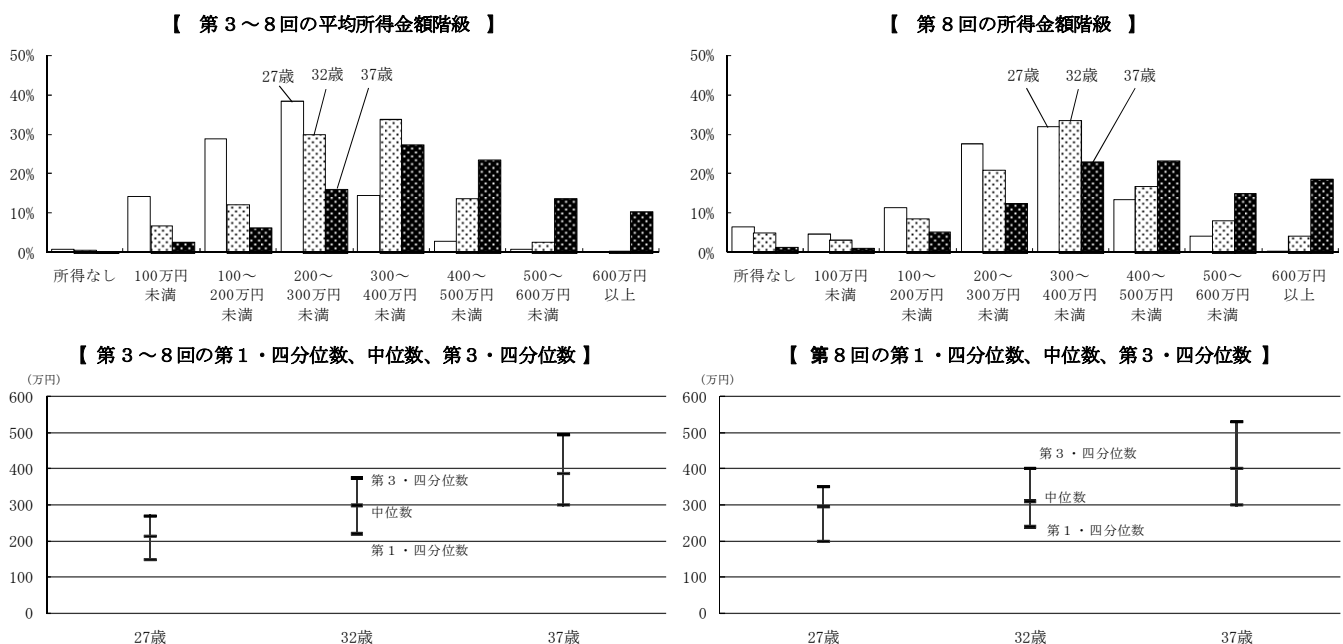
①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている男性

②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者

2) 年齢は第8回調査時の年齢である。

3) 「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。

図13 男の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級、第8回の所得金額階級、第1・四分位数、中位数、第3・四分位数



注：1) 集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。

①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている男性

②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者

2) 年齢は第8回調査時の年齢である。

3) 「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。

(2) 女の所得の状況

女性の第3回調査時から第8回調査時までの所得の状況をみると、年齢が高くなるほど中位数は低くなり、四分位分散係数は大きくなっている。

女の第3回から第8回までの平均所得について金額階級別の割合をみると、27歳及び32歳では「100万円以上200万円未満」がそれぞれ40.1%、29.9%、37歳では「100万円未満」が39.4%と最も大きくなっている。

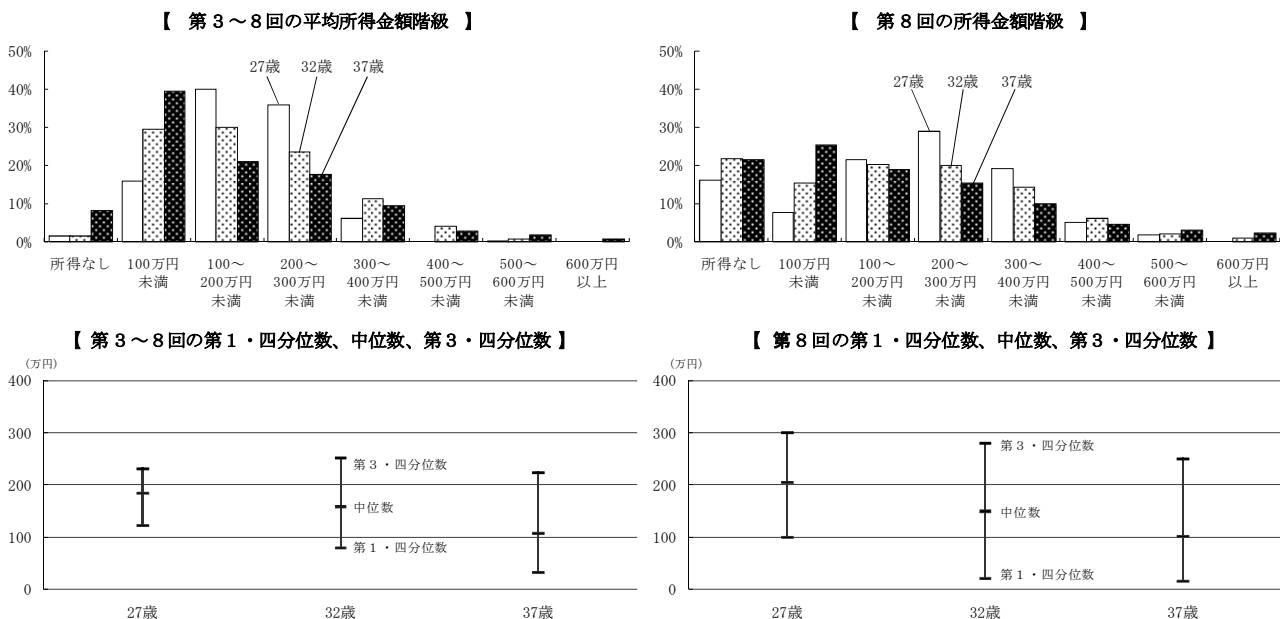
また、第8回の所得について金額階級別の割合をみると、27歳では「200万円以上300万円未満」が28.9%、32歳では「100万円以上200万円未満」が20.2%、37歳では「100万円未満」が25.2%と最も大きくなっている。(表14、図14)

表14 女の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級及び第8回の所得金額階級

	第3～8回の平均所得金額階級			第8回の所得金額階級		
	27歳	32歳	37歳	27歳	32歳	37歳
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
所得なし	1.6	1.5	8.0	16.1	21.7	21.4
100万円未満	15.9	29.4	39.4	7.7	15.4	25.2
100万円以上200万円未満	40.1	29.9	20.8	21.5	20.2	18.9
200万円以上300万円未満	36.0	23.5	17.6	28.9	19.9	15.2
300万円以上400万円未満	6.1	11.0	9.4	19.1	14.2	10.0
400万円以上500万円未満	-	4.1	2.6	5.0	6.0	4.4
500万円以上600万円未満	0.3	0.6	1.6	1.7	1.8	2.9
600万円以上	-	-	0.6	-	0.9	2.1
平均所得金額(万円)	178.6	174.5	146.6	194.7	169.3	158.1
第1・四分位数(万円)	122.5	79.8	33.0	100.0	20.8	16.0
中位数(万円)	183.0	158.0	108.5	205.0	150.0	103.0
第3・四分位数(万円)	231.0	251.3	224.3	300.0	280.0	250.0
四分位分散係数	0.30	0.54	0.88	0.49	0.86	1.14

注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。
 ①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている女性
 ②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者
 2)年齢は第8回調査時の年齢である。
 3)「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。

図14 女の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級、第8回の所得金額階級、第1・四分位数、中位数、第3・四分位数



注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。
 ①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている女性
 ②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者
 2)年齢は第8回調査時の年齢である。
 3)「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。

IV 職業観

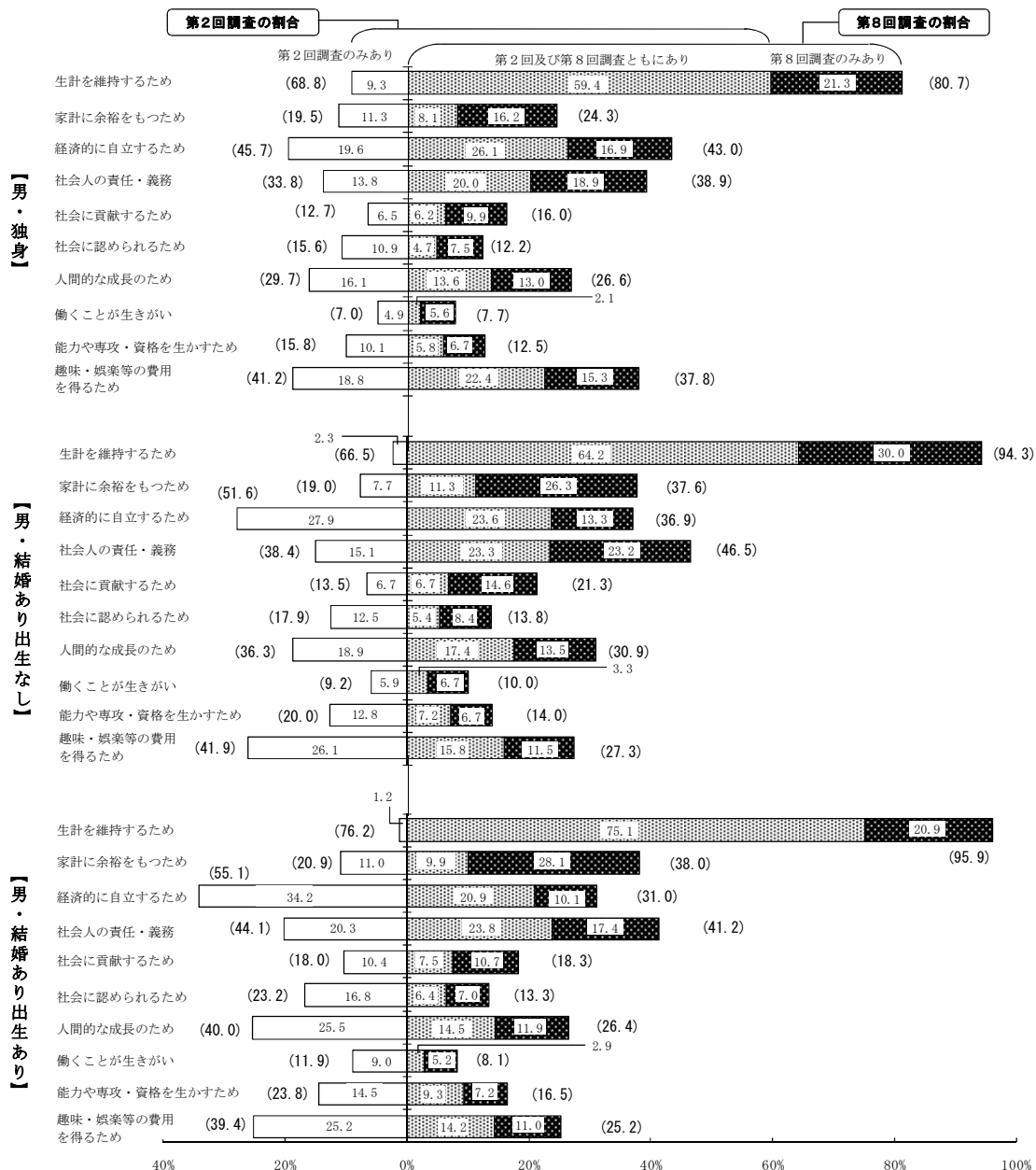
1 結婚・出生の状況別にみた職業観

第2回調査時の独身者のうち、この6年間の結婚、出生の経験の有無にかかわらず男性の職業観は「生計を維持するため」が最も高く、この6年間に結婚、出生を経験した女性の職業観は「家計に余裕をもつため」が最も高い。

第2回の独身者について、性別、結婚・出生の状況別に第2回及び第8回の職業観をみた。

男をみると、この6年間独身では、「生計を維持するため」は第2回 68.8%、第8回 80.7%、結婚あり出生なしでは、第2回 66.5%、第8回 94.3%、結婚あり出生ありでは、第2回 76.2%、第8回 95.9%となっており、いずれも高くなっている。(図15)

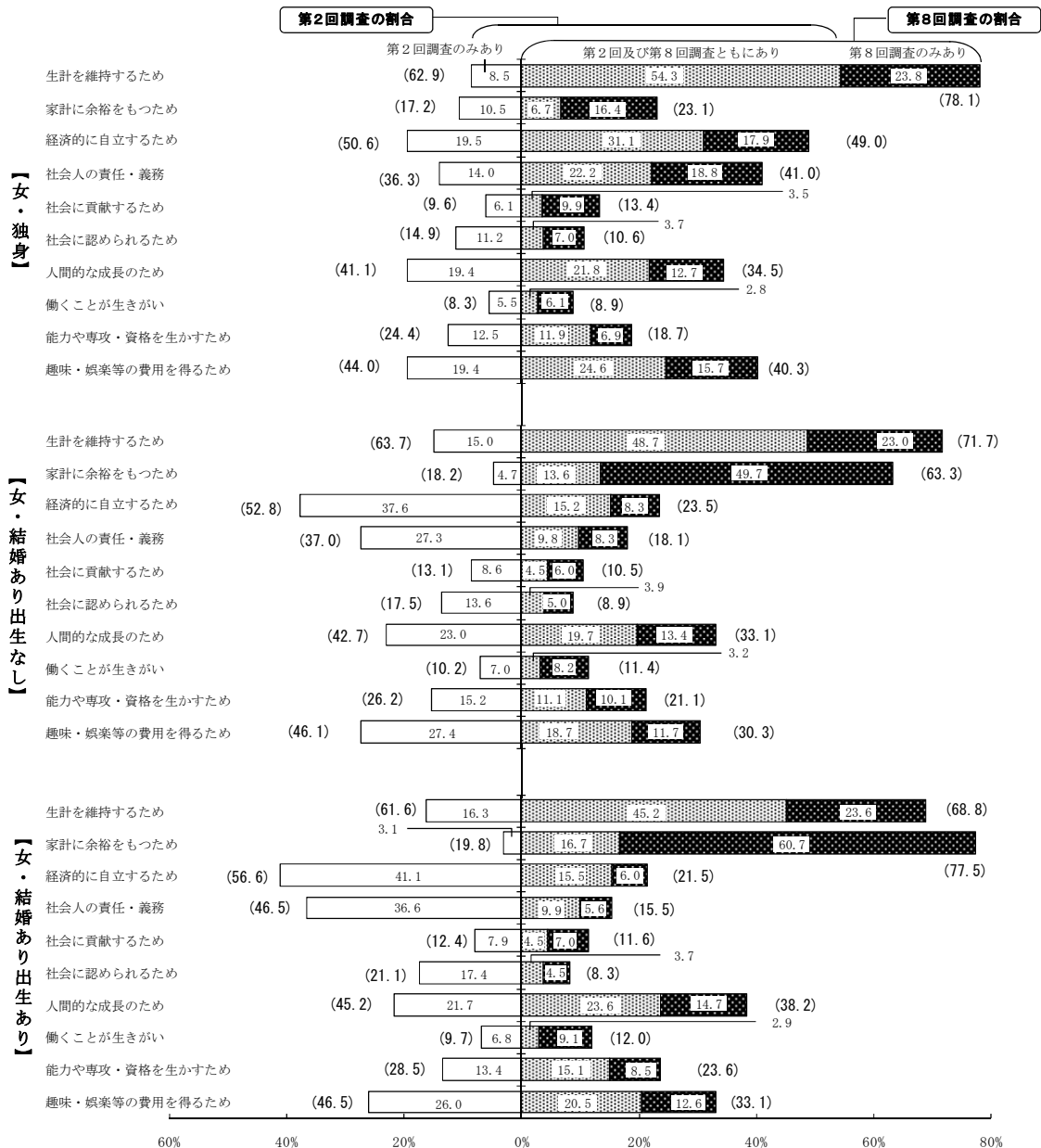
図15 男のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の変化



注：1) 集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。
2) () 内の数値は各回の状況である。

また、女をみると、第2回では「生計を維持するため」がこの6年間独身では62.9%、結婚あり出生なしでは63.7%だったが、第8回では、78.1%、71.7%といずれも高くなっている。結婚あり出生ありでは、第2回に「生計を維持するため」が61.6%と最も高かったが、第8回は「家計に余裕を持つため」が77.5%と最も高くなっている。(図16)

図16 女のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の変化



注：1)集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。
 ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。
 2) () 内の数値は各回の状況である。

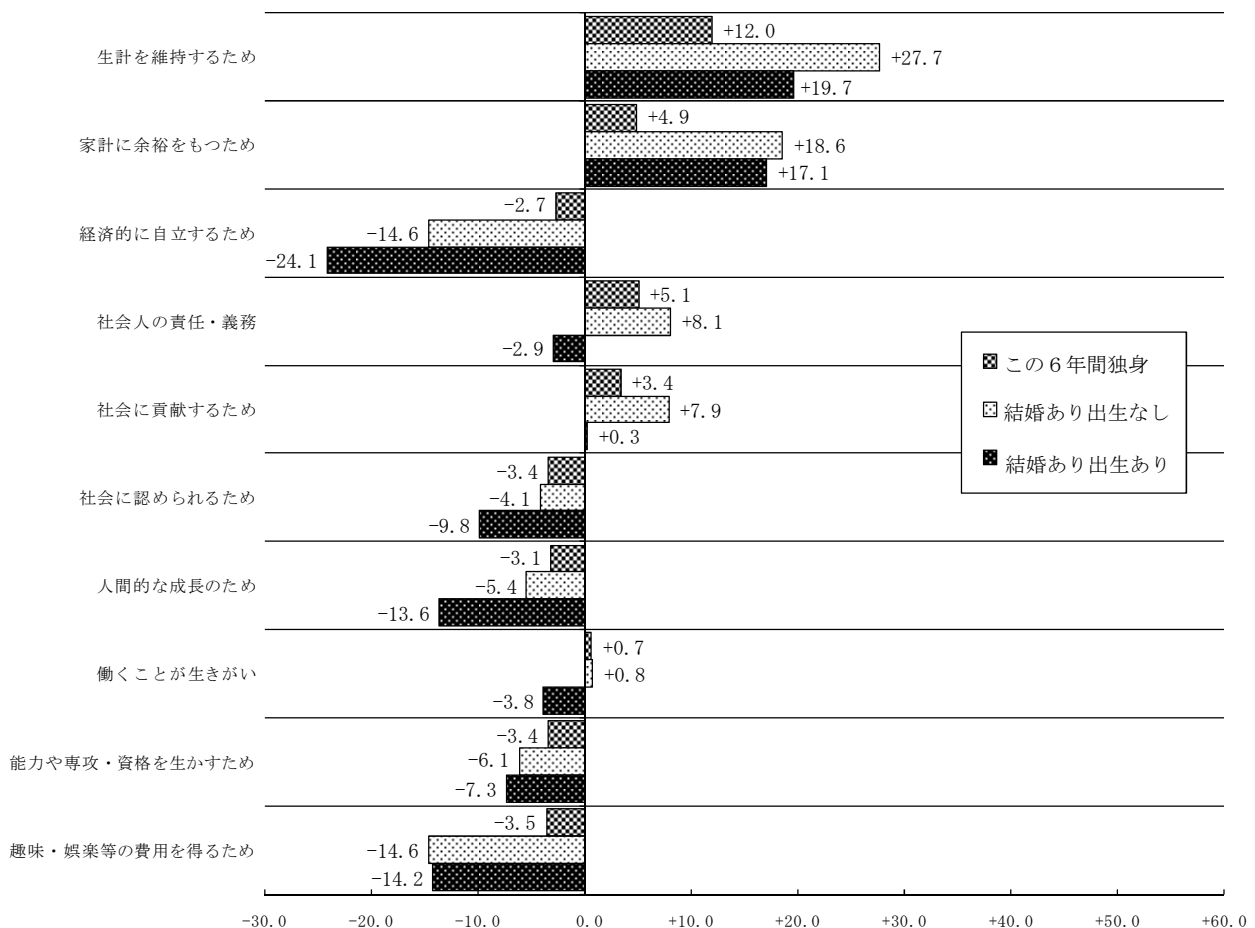
2 結婚・出生の状況別にみたこの6年間の職業観の変化

第2回調査時の独身者のうち、この6年間に結婚、出生を経験した男性の職業観は、「経済的に自立するため」が減少し、「生計を維持するため」が増加している。また、この6年間に結婚、出生を経験した女性の職業観は、「経済的に自立するため」が減少し、「家計に余裕をもつため」が増加している。

17、18頁の図15・16から、第2回から第8回のこの6年間の職業観の変化の増減をみた。

男をみると、この6年間独身では「趣味・娯楽等の費用を得るため」が3.5ポイント減、「生計を維持するため」が12.0ポイント増となっている。結婚あり出生なしでは、「経済的に自立するため」「趣味・娯楽等の費用を得るため」がともに14.6ポイント減、「生計を維持するため」が27.7ポイント増、結婚あり出生ありでは、「経済的に自立するため」が24.1ポイント減、「生計を維持するため」が19.7ポイント増となっている。(図17)

図17 男のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の増減



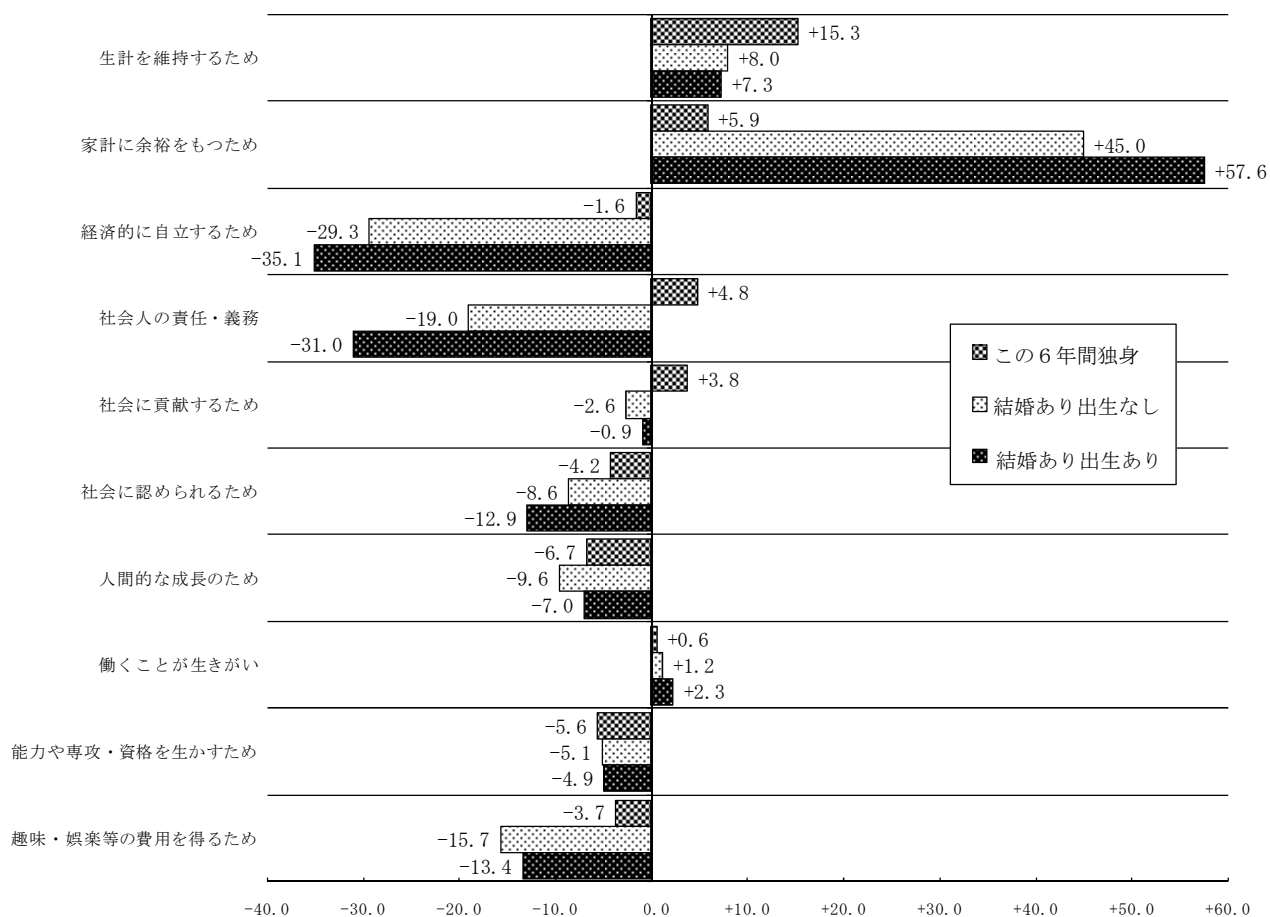
注：1) 集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。

ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2) 数値は、第8回調査時の数値－第2回調査時の数値として集計した。

また、女をみると、この6年間独身では「人間的な成長のため」が6.7ポイント減、「生計を維持するため」が15.3ポイント増となっている。結婚あり出生なし及び結婚あり出生ありでは、「経済的に自立するため」がそれぞれ29.3ポイント減、35.1ポイント減となっており、「家計に余裕をもつため」がそれぞれ45.0ポイント増、57.6ポイント増となっている。(図18)

図18 女のこの6年間の結婚・出生の状況別にみた
第2回調査時及び第8回調査時の職業観（複数回答）の増減



注：1) 集計対象は、第1回及び第2回調査時に独身で第8回調査時まで回答を得られている者である。
ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。
2) 数値は、第8回調査時の数値－第2回調査時の数値として集計した。

参 考

1 集計客体数一覧

(1) 結果の概要「Ⅰ 第1回調査時の独身者の結婚の状況」

図表番号	集計対象の条件	客体数		対象となる調査票	
		男	女	男性票	女性票
表1, 図1	第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者	5,918	6,746	○	○
表4, 図4	第3回調査時の独身者	3,482	3,316		

(2) 結果の概要「Ⅱ 夫婦における子どもの出生の状況」

図表番号	集計対象の条件	客体数	対象となる調査票			
			男性票	女性票	配偶者票 (男性用)	配偶者票 (女性用)
表5, 図5	夫婦（以下の①または②に該当する夫婦）	3,791	○	○	○	○
	① 第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦					
	② 第1回調査時に独身で第7回調査までに結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦					
表6	夫婦のうち、出生ありの夫婦から妻の「出生前データ（用語の定義12参照）」が得られていない夫婦を除き、調査対象となってから同居している夫婦	3,392	○	○	○	○
図6	同居している夫婦のうち、子どもが1人以上いる夫婦	2,474				
	この7年間に第2子以降の出生あり	1,068				
	この7年間に第2子以降の出生なし	1,406				

(3) 結果の概要「Ⅲ 就業の状況（1～3）」

図表番号	集計対象の条件 (第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者)	客体数		対象となる調査票	
		男	女	男性票	女性票
表7	第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者（第2回調査時に主に通学している者を除く）	5,631	6,523	○	○
図7	第1回調査時に仕事ありで、かつ就業形態が「非正規」の者	593	1,631		
表8, 図8	第8回調査時に学歴が「その他」「不詳」の者を除く	5,412	6,365		
	中学卒業の者	388	207		
	高校卒業の者	2,368	2,347		
	専門学校・短大・高専卒業の者	1,093	2,721		
	大学・大学院卒業の者	1,563	1,090		
表9, 図9	第1回調査時の独身者（結婚した者は、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く）で、この7年間に結婚し、結婚前に仕事ありの女性	/	1,253		

(4) 結果の概要「Ⅲ 就業の状況(4～5)」

図表番号	集計対象の条件 (「夫婦」の集計対象の条件は、前頁(2)の「夫婦」と同じ)	客体数	対象となる調査票			
			男性票	女性票	配偶者票 (男性用)	配偶者票 (女性用)
表10, 図10	出生前調査時または第7回調査時に妻が仕事ありの夫婦	1,867		○		
	この7年間に出生あり	616				
	この7年間に出生なし	1,251				
表11, 図11	この6年間に出生ありで、出産前調査時に妻が会社等に勤めており、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦	446				
表12, 図12	この7年間に出生ありで、第8回調査時に小学校入学前の子どもがいる女性	1,301				

(5) 結果の概要「Ⅳ 職業観」

図表番号	集計対象の条件 (第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者)	客体数		対象となる調査票	
		男	女	男性票	女性票
図15, 図16 図17, 図18	第1回調査時及び第2回調査時の独身者(結婚した者は、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く)	3,568	3,443	○	○
	この6年間に結婚した者	954	1,170		
	この6年間に出生あり	345	484		
	この6年間に出生なし	609	686		
	この6年間に結婚していない者	2,614	2,273		

2 「1」以外の集計客体数

(1) 結果の概要「Ⅰ 第1回調査時の独身者の結婚の状況」

表2・図2 性、各回調査時の就業形態別にみた次回調査までの結婚の状況

	男		女	
	正規	非正規	正規	非正規
第1回調査	1 798	652	1 695	1 072
第2回調査	1 697	632	1 586	995
第3回調査	1 773	526	1 604	915
第4回調査	1 900	554	1 633	939
第5回調査	1 869	525	1 532	894
第6回調査	1 712	467	1 364	825
第7回調査	1 552	454	1 214	797

表3・図3 各回の独身者の過去3回調査における就業形態の回数別にみた次回調査までの結婚の状況

	男	女
第3回調査	1 659	1 835
第4回調査	1 622	1 815
第5回調査	1 800	1 935
第6回調査	1 923	1 959
第7回調査	1 851	1 822

(2) 結果の概要「Ⅱ 夫婦における子どもの出生の状況」

表6 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの7年間の出生の状況

	総数	子どもなし の夫婦	子ども1人 の夫婦	子ども2人以上 の夫婦
総数	3 392	918	1 032	1 442
家事・育児時間なし	257	145	38	74
2時間未満	1 027	520	180	327
2時間以上4時間未満	721	160	226	335
4時間以上6時間未満	418	17	187	214
6時間以上8時間未満	185	3	82	100
8時間以上	572	2	273	297

図6 夫の休日の家事・育児時間別にみたこの7年間の第2子以降の出生の状況

	総数	家事・育児 時間なし	2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上
総数	2 474	112	507	561	401	182	570

(3) 結果の概要「Ⅲ 就業の状況」

図7 性、年齢階級別にみた第1回調査時に非正規だった者の第8回調査時の就業形態の変化

	総数	20～24歳	25～29歳	30～34歳
男	593	277	192	124
女	1 631	443	508	680

表9 年齢階級別にみた結婚した女性の就業継続の有無

	総数	(再掲) 正規	(再掲) 非正規
総数	1 253	807	366

表11 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無

	総数	(再掲) 正規 かつ第1子出生	(再掲) 非正規 かつ第1子出生
総数	446	92	92

表12 親の支援の有無、妻の仕事の有無別にみた保育サービス等の利用状況

	総数	親の支援あり	親の支援なし
総数	1 301	304	997

表13・14 性、年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級および第8回の所得金額階級

	第3～8回			第8回		
	27歳	32歳	37歳	27歳	32歳	37歳
男	284	327	466	262	282	417
女	314	344	500	298	332	481

用語の定義

- 1 「**独身者**」とは、「配偶者なし」と回答した者をいい、未婚、離別、死別は区別していない。
- 2 「**夫婦**」とは、第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦、または、第1回調査時に独身で第7回調査までに結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦である。
- 3 「**結婚した**」及び「**夫婦**」には、事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない者を含む。
- 4 「**正規**」、「**非正規**」及び「**自営業等**」は次の就業形態をいう。
正 規 …… 正規の職員・従業員
非 正 規 …… アルバイト、パート、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託、その他
※なお、これらの就業形態は、勤め先における呼称を基準としている。
自 営 業 等 …… 会社などの役員・自営業主、自家営業の手伝い、自宅での賃仕事（内職）
- 5 就業状況の変化とは、調査時点をA時点、B時点（A時点<B時点）としたときの、仕事の有無及び就業形態について比較したものであり、次の変化の状況をいう。
同一就業継続 …… A時点、B時点において、勤め先、及び就業形態が変わっていないこと、また、自ら行っている事業が変わっていないことをいう。
転 職 …… B時点で、A時点とは勤め先または就業形態の異なっていることをいう。
新規就業 …… A時点で仕事なし、B時点で仕事ありのことをいう。
離 職 …… A時点で仕事あり、B時点で仕事なしのことをいう。
無職継続 …… A時点で仕事なし、B時点で仕事なしのことをいう。
- 6 出生の状況の「**出生あり**」とは、夫婦の双方から回答を得られてからの出生である。
- 7 「**子どもなし**」とは、「子ども」欄に記入がなかった者をいう。
- 8 「**育児休業制度の有無**」とは、「あなたのお勤めの会社等には、あなたの就業形態で利用可能な次の制度はありますか」と質問した時の、育児休業制度についての回答である。
- 9 「**家事・育児時間**」とは、1日の中で家事や育児に何時間くらい費やしているかを、平日と休日に分けて質問したものである。
- 10 「**第1回調査時**」～「**第8回調査時**」とは、それぞれの回の調査時点で把握した項目である。
- 11 「**結婚前調査時**」「**結婚後調査時**」とは、それぞれ結婚直前、直後の調査時点において把握した状況である。

12 「**出生（出産）前調査時**」とは、各回調査月（11月）の翌月12月から翌年5月までの出生の場合は前々回調査時（A）、6月から次の調査までの出生の場合は前回調査（B）において把握した状況である。これは、出生に係る分析において、妊娠が判明していない時点の状況を把握するものである。

（A）出生の13～18か月前の状況

（B）出生の7～12か月前の状況

また、「**出生前データ**」とは、出生前（出産前）の調査時点で把握した対象者のデータをいう。

13 「**出生（出産）後調査時**」とは、出生直後の調査時点において把握した状況である。

14 「**この7年間**」とは、第1回調査から第8回調査までの間のことをいう。また、「**この6年間**」とは、第2回調査から第8回調査までの間、「**この5年間**」とは第3回調査から第8回調査までの間のことをいう。

15 「**分位数**」とは、分布の形を示す値である。具体的には、データを所得金額の低いものから高いものへと一列に並べたときに、集計対象の所定の位置に該当する境界値である。

第1・四分位数 …… 低い方から数えて全体の4分の1に該当する境界値

中位数 …… 低い方（あるいは高い方）から数えて全体の2分の1に該当する境界値

第3・四分位数 …… 高い方から数えて全体の4分の1に該当する境界値

16 「**四分位分散係数**」とは、分布の広がりを示す指標の一つであり、次の算式により計算された数値をいう。一般に、その値が小さいほど分布の広がりの程度が小さいことを示す。

$$\text{四分位分散係数} = \frac{\text{第3・四分位数} - \text{第1・四分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$

17 「**職業観**」とは、働くことに対する考え方を質問したものである。

(参考) 概況 P 4 表 2 及び P 5 表 3 について

・ P 4 2 就業形態別にみた各回の状況 … 第 N 回調査の就業形態で集計

表 2



・ P 5 3 就業形態の回数別にみた状況 … 過去 3 回における就業形態の回数で集計

表 3

